

移い動どう市し長ちやう室しつ

筑紫野市しゆにんじ主任児童委員どういんかい会 地域・学校・家庭をつなぐ架け橋か

通算86回目となる移動市長室を、11月29日(木)に開催しました。筑紫野市主任児童委員会と懇談を行い、12人の出席がありました。



筑紫野市民生委員・児童委員連合会(民児連)理事会とは、平成24年10月に実施した第15回移動市長室で、主な活動内容や課題、提案などについて懇談

を行いました。今回は、民児連の中の主任児童委員会との懇談であり、役割や主な活動、事例についての報告を受け、意見交換を行いました。

「主任児童委員」とは？

民生委員は、民生委員法により厚生労働大臣から委嘱された民間の奉仕者で、児童福祉法により児童委員を兼ねることになっています。民生委員制度は、平成29年に創設100周年を迎えました。

一方で、主任児童委員とは、子どもや子育てに関する支援を専門に担当する民生委員・児童委員で、子育てを社会全体で支える「健やかに子どもを産み育てる環境づくり」を進めるために平成6年1月に制度化されました。

市内に120人いる民生委員・児童委員のうち、主任児童委員は11人、六つの地区民生委員児童委員協議会(民児協)に2人ずつ配置され(二日市東地区民児協は1人)、区域を担当する民生委員・児童委員と連携しながら、子育て支援や児童健全育成活動などに取り組んでいます。



事例発表がありました

子どもと子育てを支援する

児童福祉に関する問題を専門的に担当する立場から、地域において期待される主任児童委員の役割について報告がありました。

主任児童委員は、学校や子育て支援課、家庭児童相談室、そして地域からの情報提供によって活動することがほとんどであり、その中で家庭児童相談室や児童相談所に相談・連絡し、情報を提供したり受け取ったりしながら、学校や保護者につなげるなど「関係機関などとの連絡調整」を行っています。また、「児童委員への支援活動」については、制度化された当初は、主任児

童委員が民生委員・児童委員へ支援を行うという形が取られていましたが、現在では、主任児童委員が民生委員・児童委員へ協力をお願いしながら、子どもの様子の把握や情報交換を行っています。

次に、さまざまな理由で子どもが生活しづらい状況になったときに見守りや声かけなどの「要援護児童・家庭への支援」を行います。これが根幹であり、活動の中心となります。

最後に、主任児童委員は、あくまでも民生委員・児童委員の1人なので、毎月の定例会に出席し、研修を受けることなどが「民児協での役割」です。

子どもたちのために手をつなごう

主任児童委員は、地域・学校・家庭からの相談を受け、それぞれを関係機関につなぐ窓口であり、架け橋として活動しています。その中でも学校とのつながりでは、子どもたちに関する情報の窓口となっており、学校運営協議会をはじめ、各種会議に参加し、それらの中で困っている子どもたちや保護者について話し合い、必要に応じて関係機関とも連絡を取っています。保護者から相談を受けることもあり、学校と保護者とのワンクッションとなって学校の応援団という姿勢で活動しています。登下校の見守りや入学式・卒業式をはじめ、体育祭・文化祭などの学校行事に出席し、情報交換や見守りをしながらい行事も楽しんでいきます。

さらに子どもたちをより知っていくために、さまざまな場面での見守り活動を行い、地域行事で子どもや保護者と顔見知りになったり、子育てサロンに参加する中で未就学児の親たちと関わりを持ったり、依頼によって観月会や成人式にも参加したりしているという報告を受けました。

最後に、要援護児童・家庭への支援の事例として、母子一時保護、父子家庭の見守り、小学校から中学校までの長期にわたる見守りについての発表がありました。

地域の中で子どもたちが安心して健やかに

意見交換では、報告に対する質疑応答を行い、交流を深めました。

関わっている地域行事の紹介や、登下校時にはあいさつ運動を通して、顔見知りになって声かけをしながらい、子どもたちを見守っていること。長く活動をする中で以前に比べて地域・学校・

行政の中で参加する行事数が増えたこと、学校では不登校・いじめ・発達障がいに関する増加、家庭では家族のあり方が急激に変化して共働き・ひとり親家庭の増加により子どもたちの生活環境が少しずつ不安定化、貧困の格差を感じていること。

一方で、いろいろな行事に参加する中で少しずつ主任児童委員を理解してもらっていることを感じている、などの話がありました。これからも相談をつないで困っている子どもたちを少しでも救うために、地域の民生委員・児童委員とともに連携・協力していきなさいなど思いをたくさん聞くことができました。

懇談の中での意見は、今後の市政に生かしていきます。

参加者からの感想

・私たちの活動に目を向けていただいたことにとても感謝しています。市長からのエールをいただいで元気が出ました。

・私たちが主任児童委員のことに關して、話をしたことがなかったなので、よい機会でした。知名度がないので、この機会ですべての人に知っていただけるのではないかと思います。

藤田市長の一言

皆さん方が地域に入っていくためにも民生委員・児童委員さんとコンタクトを取りながら、また、与えられた任務の中で主任のついでに児童委員として活躍されている様子をいろいろお聞きすることができました。これは、並大抵の苦労ではないと思いますし、大変な仕事をお願いしているんだな、ということを感じて、気づきや目覚めの機会をつくっていただき、大変ありがたく思います。

主任児童委員会の皆様、今日はどうもありがとうございました。

